

令和2年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費 <input type="checkbox"/> 個人研究支援経費
プロジェクトの名称	一人一台端末環境下での具体的な学習活動と「情報活用能力の体系表例」との関連付け
報告者氏名・所属・職名	白川 卓・ 附属函館中学校・ 副校長
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	白川 卓・ 附属函館中学校・ 副校長 中村 吉秀・ 教職大学院 ・ 特任教授 山口 好和・ 函館校 ・ 准教授 郡司 直孝・ 附属函館中学校・ 教諭 有金 大輔・ 附属函館中学校・ 教諭
研究内容及び成果の概要	
<p>(1) 研究内容の概要</p> <p>本研究では、「情報活用能力の体系表例」（以下、「体系表例」とする）に示された児童生徒の状況及び指導状況を基盤として、一人一台端末の環境での具体的な学習活動を関連付けて、検討・整理するものであった。具体的には、以下の4つの内容で構成されていた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「体系表例」における要素（学びのすがた）の抽出・再整理 ② 「体系表例」の構成要素から学習活動への具体化 ③ 「一人一台」環境における実践事例の再分析と活用 ④ 「体系表例」と実践例の実現可能性を検証 <p>しかし、今年度研究では、「①『体系表例』における要素（学びのすがた）の抽出・再整理」に関する取組みに留まった。その理由は、体系表例の表現そのものがきわめて抽象的であるため、その表現から具体的な児童生徒の学びのすがたを設定することについて、研究担当者間での共通認識の醸成や具体的な設定に、多くの時間を要したためである。</p> <p>(2) 研究成果の概要</p> <p>(1)の通り、「①『体系表例』における要素（学びのすがた）の抽出・再整理」に関して取り組むことができ、「学びのすがた」について教科等を横断するものを形成することができた。今後は、②以降の取組を継続することによって、一人一台端末環境下での具体的な学習活動を検討することや、それらを検証することに取り組んでいくこととしたい。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】なし	
【学術論文】なし	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
なし	
配布又はダウンロード可能な資料	なし
問い合わせ先	代表者：白川 卓 電話：0138-46-2233 FAX：0138-47-6769 mail：shirakawa.takumi@h.hokkyodai.ac.jp